

# 平成28年度 練馬区立富士見台小学校 学校経営計画

校長 眞瀬 敦子

## 1, 本校の教育目標

- かしこい子
- やさしい子
- たくましい子

## 2, 目指す児童像

豊かに感じる心（感性）をもった子どもの育成

- 「豊かに感じる心」とは
- ・美しいものを美しいと感じる心
  - ・人と関わることを楽しいと感じる心
  - ・知的好奇心をもち、知ることを喜びと感じる心

## 3, 長期経営目標

○新学習指導要領の改訂の趣旨に沿って目標を定める。キーワードは、「主体性」と「協働」。

### (1) 改訂の背景

今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は激しい挑戦の時代を迎えている。

即ち、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても現在とは様変わりしていく。こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を子供たちに付けなくてはならない。

### (2) 今後の教育の方針（『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について』

H26.11 文部科学省の中央教育審議会の諮問より）

「教師が何を教えるか」から、「子供がどのように学ぶか」という学びの質や深まりの重視、課題の発見と解決に向け得た主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブラーニング）、そのための指導法の充実が求められている。また、こうした学習・指導法の改革と併せて、学びの成果として「どのような力が付いたか」という学習評価の改善も図る必要がある。

〈児童に付けなくてはならない力〉

- 何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度
- 他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力
- 豊かな感性や優しさ、思い遣りなどの豊かな人間性
- 自分の学びや成長を自覚した自己有用感や、自尊感情

## 4, 目指す学校像

(1) 一人一人が自分の仕事に自信と誇りと謙虚さをもち、互いを尊重しながら切磋琢磨していく学校  
学校の教職員は・用務のプロ・調理のプロ・事務のプロ・授業のプロ・経営のプロ の集団である。五者が協力してはじめて、よりよい学校教育が行える。

(2) 児童も教職員も、富士見台小の一員であることに喜びと誇りを感じ、毎日学校に来ることが楽

## しいと感じる学校

子供は大人の姿を見て育つ。まず、私達教職員が常に学び続ける姿を子供たちに示したい。

### 5、中期経営目標

- (1) 挨拶を手始めに、相手を思いやる心を育て、コミュニケーション能力を高める。
- (2) 縦割り班活動、異校種交流などを通して、心の教育を充実させ、自尊感情、自己有用感をもった児童を育成する。  
また、規範意識をもち、自分で考え、行動できる児童を育成する。
- (3) 児童の学力向上、教員の指導力向上を、算数を中心とした授業研究や算数少人数制の充実、若手研修の充実などを通して行う。
- (4) オリパラ教育を推進し、国際理解教育と、自分の健康を自分で維持管理できる児童の育成を行う。
- (5) 百人一首をきっかけに、日本の伝統文化や言語文化に慣れ親しませる。

### 6、今年度の目標と方策

#### 「かしこく」(学力向上)

- (1) 教員の授業力向上
- (2) 読書活動の重視
- (3) 学習規律の徹底
- (4) 学習指導の充実

#### 「やさしく」(豊かな心・思いやる心・強い心)

- (1) 挨拶指導の徹底
- (2) 縦割り班の活用
- (3) 規範意識の育成
- (4) 異校種交流(幼・保・中との連携)
- (5) 地域や保護者の方への感謝の気持ちの育成
- (6) ビオトープの維持と活用

#### 「たくましく」(体力向上)

- ◎オリンピック・パラリンピック教育を推進し、自分の体のことを知り、目標やねらいをもって運動をしようとする子を育てる。
- (1) スポーツテストの活用
  - (2) コアオーディネーショントレーニングの導入
  - (3) 生活習慣や運動習慣等の定着に関する実践研究校として
    - ①縄跳び
    - ②一輪車
    - ③投力の向上
    - ④佐々木先生による「親子体操教室」を、中学年にまで広げる。
  - (4) 引き続き不登校の無い学校として、きめ細かい児童の心のケアを行う。